

<p>人生における宗教の意義 (4時間)</p>	<p>○ 仏教の基本的な教えと性格を理解させ、釈迦の実践的な教えのなかから自己の生き方のうえに生かすものを発見させる。</p>	<p>2 仏陀の教え—煩惱と悟り</p> <p>(1) 身近な仏教用語について</p> <p>(2) 釈迦の悩み—釈迦の生涯</p> <p>(3) 釈迦の悟り—諸行無常, 縁起, 慈悲</p> <p>(4) 仏教と私たちの生き方</p>	<p>○ 『原始仏典』(中央公論社)</p> <p>○ 『仏教の基礎知識』(水野弘元著 春秋社 P 134～157)</p> <p>○ 『仏陀』(増谷文雄著 角川選書 P 29～41)</p>	<p>○ 釈迦の教えを中心に展開していくが、「宗教とは何か」という人間としての根源的な問いかけに対して、何らかの手がかりが得られるように工夫する。</p> <p>○ 仏教が問題にしているもの、すなわち人生の苦悩の実相とそれをいかに克服するかについて考えさせる。</p>	<p>生活を築いて行くように努める。)</p> <p>(道徳) 9 「自然を愛し、美しいものに感動し、崇高なものに素直にこたえたる豊かな心をもつ。」</p> <p>(倫理) 「人生における宗教の意義」の観点から、キリスト教と仏教とを対比したりして取り扱う。</p>	<p>について学ばせることにより生徒に人間として生きていくことの自覚を深めさせる。</p> <p>(世界史) 内容 (1) 文明のおこり インド文明の成立 「反バラムンの動きの中で誕生した仏教がマウリヤ朝, クシャーン朝などの国家興隆の気運と結合して発展した状況」について理解させる。</p> <p>(世界史) 内容 (1) 文明のおこり 地中海文明の成立</p> <p>キリスト教の成立と発展については、ローマ帝国の社会情勢や宗教政策と関連づけて扱い、キリ</p>
<p>○ キリスト教といいう宗教的人間の道はイエスによって開かれたが、この教えは人間をこえた神を信仰し、人間のうちに宿る罪を自覚して神の愛のもとで謙虚に生きようとする立場であることを考え</p>	<p>3 キリスト教—愛の教え</p> <p>(1) 悩める人</p> <p>(2) 人間の本性としての罪</p> <p>(3) イエスの教え—ユダヤ教とイエスの生涯, 悔い改め, 愛の教え</p> <p>(4) キリスト教と私たちの生き方</p>	<p>○ 聖書には豊富な人生経験が記されているので、できるだけ引用する。</p> <p>○ 神の愛は無差別の愛であり、あやまちを、悔い改めるならば神は許してくれることに気付かせる。</p>	<p>○ 『聖書』</p> <p>○ 『イエス』(八木誠一著 清水書院 P 90～96)</p> <p>○ 『氷点』(三浦綾子著)</p>	<p>○ 聖書には豊富な人生経験が記されているので、できるだけ引用する。</p> <p>○ 神の愛は無差別の愛であり、あやまちを、悔い改めるならば神は許してくれることに気付かせる。</p>	<p>○ 聖書には豊富な人生経験が記されているので、できるだけ引用する。</p> <p>○ 神の愛は無差別の愛であり、あやまちを、悔い改めるならば神は許してくれることに気付かせる。</p>	<p>○ 聖書には豊富な人生経験が記されているので、できるだけ引用する。</p> <p>○ 神の愛は無差別の愛であり、あやまちを、悔い改めるならば神は許してくれることに気付かせる。</p>